

安全の徹底とフェアなレースを目指して

“ノーケース、ノートラブル” 学生時代に大きなレースに臨むとき、目標の一つとして多く語った言葉です。これの意味するところは、ケースを起こしての“失格”、レースが続行できないトラブルによる“リタイヤ”となると、どちらも大きな失点につながるので、十分に気をつけようと自艇に対する戒めのようなものでした。昔は選手向けの講習会の機会がなく、ルールの解説書で勉強し、レース前には入念に艇の点検を行ったものです。

2017年の蒲郡ワールドでは、大会目標の一つに、表題の“安全の徹底とフェアなレースの実現”を掲げたいと思っています。大会の準備、運営を行う立場と出場する選手の立場の両面から、その実現を目指します。

まず、安全対策についてですが、主催者の立場からは、起こりうる事故等に対し、十分な備えをすることだと考えています。具体的には、荒天時のレスキューやハーバーバックを速やかに行う工夫、最も暑い時期の大会となりますので、海上、陸上での熱中症等の対策などが考えられます。一方、選手の立場としては、自力でセーリングできなくなるようなトラブルを防ぐことです。具体的には、乗員のけが、ステー等の切断、マスト・ブームの折れ、マストステップのピン折れ、ラダートラブルなど。これらは日頃の整備と点検により多くのことが未然に防ぐことができると思います。“**Fanfare for the common man**” (<http://ameblo.jp/tasarijapan/>) にテザーの艀装に関する情報が整理されています。今後は協会のホームページでも安全に関する情報提供を行っていきますので、ご活用いただきたいと思います。

次にフェアなレースの実現についてです。いくつかの要素があるかと思いますが、大会を運営する立場からは、コンディションとレース運営のクォリティーが求められると思います。その両者において蒲郡はトップレベルだと確信しています。一方、選手の立場としては、“規則”の遵守が求められます。これまでテザークラスのレースでは、ルール違反ではないかとの意思表示をすることが少なく、その結果として規則違反やペナルティー履行の意識が希薄になっているのではないかと感じています。レース中に出くわすシーンにおいて、適用されるルールを理解し、実際のレースシーンで自艇に違反があったと思えば、ペナルティーを履行する、そのようなグッド・マナーのレースを実践し、海外のセーラーを迎えましょう。協会のホームページにおいて、実際のレースシーンでよくあるケースや判断を迷うケースを取り上げ、適用されるルールの説明等を行うコーナーを設けます。各ケースについて、直ちに正しい解釈を得ることは難しいので、皆さんの知識を持ち寄って、正解を導きだすような形で進めていきます。これを機会にルールの理解を深めていただけたらと思っています。

間もなく江の島全日本です。30回目となる節目の記念大会、安全にフェアなレースを楽しみましょう。

2015年10月

日本テナー協会
会長 田中郁也